

若年層の死因（2017 年）



年齢階級	1 位		2 位		3 位	
	死因	割合 (%)	死因	割合 (%)	死因	割合 (%)
10～14 歳	自殺	22.9	悪性新生物	22.7	不慮の事故	11.7
15～19 歳	自殺	39.6	不慮の事故	20.0	悪性新生物	10.8
20～24 歳	自殺	52.1	不慮の事故	16.6	悪性新生物	8.6
25～29 歳	自殺	46.1	不慮の事故	12.7	悪性新生物	11.8
30～34 歳	自殺	39.3	悪性新生物	18.9	不慮の事故	8.1
35～39 歳	自殺	28.8	悪性新生物	24.1	心疾患	9.0

2020 年 10 月 27 日に閣議決定された『自殺対策白書』。その中で示された統計では、10～30 代のすべての年齢層における死因の第 1 位が自殺となっている。他国と比べても深刻な状況であり、15～34 歳の若い世代で死因の第 1 位が自殺となっているのは、先進 7 カ国では日本だけである。先進 38 カ国を対象としたユニセフの調査でも、日本の子ども（5～19 歳）は、「身体的健康」は 1 位であったが、「精神的幸福度」は 37 位で、ワースト 2 位との結果であった。今後はコロナ禍が子どもや若年層のメンタルヘルスに与える影響にも注視していく必要がある。

厚生労働省『令和元年版自殺対策白書』、ユニセフ「レポートカード 16」より作表